

平成 30 年 6 月 22 日現在

機関番号：14301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2017

課題番号：26770069

研究課題名(和文) 比較映画史研究 無声映画期における反古典的形式の形成と展開

研究課題名(英文) Comparative Film History: Formation and Development of Anti-Classical Cinema in Silent Film Period

研究代表者

小川 佐和子(OGAWA, SAWAKO)

京都大学・人文科学研究所・助教

研究者番号：90705435

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、第一に、1910年代の無声映画期における主要な映画産業国を対象に、古典的ハリウッド映画形式の確立へと至る従来の進歩史観に従うのではなく、インターナショナルな映画形式とナショナルな映画形式の対峙の様相を比較映画史として記述することを目指した。

第二に、演劇・美術・音楽・舞踊・文学といった隣接する諸芸術と映画界の多様な連関が開花していった1910年代において、大衆芸術としての映画の形成プロセスを分析し、映画言語の固有性および映画作品の作家性をめぐる新たなアプローチを実践した。

その成果は、研究書『映画の胎動－1910年代の比較映画史』として人文書院より上梓した。

研究成果の概要(英文)： This research focused on major film industry countries in the silent period of the 1910's, not following the traditional progressive historical development leading to the establishment of the classic Hollywood cinema style, but the international film style and the national film style. It was aimed to describe the aspect of confrontation of the film style as comparative film history.

Secondly, in the 1910's, when various relationships between the adjacent Arts such as theater, art, music, dance, literature and the film world bloomed, the process of film as popular art was analyzed, and practiced a new approach to uniqueness and writability of cinema history.

This research was published from the Jinbun Shoin as a research book "Fetal movement of films - History of comparative film style in the 1910s".

研究分野：映画史

キーワード：比較映画史 初期映画 1910年代 無声映画 フランス映画 イタリア映画 ロシア映画 日本映画

1. 研究開始当初の背景

ヨーロッパにおける1910年代映画形式は、第一次世界大戦で各国の映画産業が打撃を受け、アメリカ映画の大量流入に伴って衰退した。映画史の最も代表的な先行研究の一冊であるデイヴィッド・ポートウェルらのThe Classical Hollywood Cinema, Columbia University Press, 1985が、ハリウッドの古典的な映画作法の形成過程を綿密に検証したのに比べ、同時期のヨーロッパ映画形式は、豊穡にもかかわらず未踏であり、その生成過程の全体像はきわめて単純化されるか、「後退した形式」と批判されてきた。古典的ハリウッド映画という圧倒的な国際的規格の登場を前に、ヨーロッパ各国で模索された映画形式の可能性は、実に多様なものだった。結果的にドミナントな形式となった作家や形式にのみ注目するのは、偏向した映画史記述であり、古典的映画に画一化される以前の混沌とした時代の、さまざまな映画形式の様相と可能性を捉えるべきである。

2. 研究の目的

本研究では、第一に、1910年代の無声映画期における主要な映画産業国(フランス、イタリア、ドイツ、ロシア、イギリス、デンマーク、スウェーデン、アメリカ、日本)を対象に、古典的ハリウッド映画形式の確立へと至る従来の進歩史観に従うのではなく、インターナショナルな映画形式とナショナルな映画形式の対峙の様相を比較映画史として記述することを目指した。

第二に、演劇・美術・音楽・舞踊・文学といった隣接する諸芸術と映画界の多様な連関が開花していった1910年代において、監督や脚本家、舞台装置家、作曲家、俳優、批評家等の人的交流の実態を把握した上で、「大衆芸術」としての

映画の形成プロセスを分析し、映画言語の固有性および映画作品の作家性をめぐる新たなアプローチを実践した。

3. 研究の方法

横断的なテーマ設定に対するアプローチとして、第一に、とりわけ密接な関係にあった二つの国を対峙させ、双方向の潮流を分析した。平成26年度は、1910年代最大の映画産業国であったフランスと、そのフランスの映画人が映画産業を根付かせた帝政期のロシアという組み合わせを検討し、平成27年度は文学と映画のコラボレーションである作家映画というジャンルを軸に、デンマーク映画とドイツ映画をとり上げた。また、平成28年度は、映画史上最初のスター・システムと映画監督の作家性の連関をめぐってイタリア映画研究に焦点を置き、最終年度は、アメリカの反古典的形式を追求し、研究成果をまとめた。研究方法としては、海外の映画祭および、ヨーロッパ各国とアメリカのフィルム・アーカイヴでフィルムの試写や同時代の資料調査し、収集した。

4. 研究成果

本年度の成果は以下の通りである。本研究の出発点である博士学位論文『1910年代の比較映画史研究—初期映画から古典的映画への移行期における映画形式の形成と展開』をもとに、研究書『映画の胎動—1910年代の比較映画史』を人文書院より上梓した(2016年2月)。

また、毎年度、海外の一次資料収集と映画調査のため、ポローニャ国際復元映画祭(6月)およびポルデノーネ無声映画祭(10月)に参加した。本映画祭では、とりわけ100年前の映画特集に注目し、まとまった復元成果を分析することができた。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 7 件)

小川佐和子、「初期日本映画における外国映画のリメイク：『憲兵モエビウス』から『大尉の娘』へ』リメイク映画の創造力』、水声社 2017 年 12 月、担当 39～71 頁

小川佐和子、「映像としての平安時代：「平安的なもの」のイメージ編成」、『新時代への源氏学 10 メディア・文化の階級闘争』、竹林舎 2017 年 4 月、担当 77～99 頁

小川佐和子、「「命かけて只一度」：《会議は踊る *Der Kongress tanzt*》をめぐる映画とオペレッタの演出」文化科学高等研究院『iichiko』第 131 号(2016 夏) 2016 年 7 月 46～64 頁

小川佐和子、「映画史と第一次大戦」『第一次世界大戦を考える』、京都大学人文科学研究所 / 共和国 2016 年 3 月 / 2016 年 4 月、担当 85～95 頁

小川佐和子、「映画と視覚芸術：帝政期ロシア映画形式の美学」京都大学人文科学研究所『人文学報』107 号 2015 年 9 月 1～29 頁

小川佐和子、「ダンヌンツィオと第一次世界大戦期のイタリア無声映画」『イタリア地中海研究叢書 1 ダンヌンツィオに夢中だった頃：生誕 150 周年記念展(東京・京都 2013 - 14)と研究の最前線』、東京大学教養学部イタリア地中海コース 2015 年 9 月、担当 220～232 頁

小川佐和子、『日本の文学理論：アンソロジー(ベータ版) / 日本の文学理論：アンソロジー』、明文舎 / 水声社 2015 年 3

月 / 2017 年 6 月 「日本の映画理論」担当 323～333 頁

[学会発表](計 13 件)

小川佐和子、「映画史と映画上映史の交差：海外における戦前の日本映画受容をめぐって」、シンポジウム「日本映画の現在 / 日本映画研究の現在：国際的な視座から」、2018 年 3 月(招待) 於東北大学大学院国際文化研究科

小川佐和子、「革命前後のロシア映画、ロシア・ソ連映画の日本受容：京大人文研究所蔵山本明資料の紹介」、レクチャー上映会「ロシア革命百周年記念映画祭—映像に刻まれたロシア革命」講演、2017 年 11 月 於京都文化博物館

小川佐和子、「World War I and Japanese Cinema: From Actuality to Propaganda」、Images of Global Conflict: Japanese Representations of the First World War、2016 年 3 月(招待) 於 Trinity College Centre for War Studies with the Centre for Asian Studies

小川佐和子、「Japanese Film on its Way into Modernity: The Confrontation with Foreign Films during the 1910s-1920s」Media Business Archeology: Japanese Politics, Culture and Mass Media Business, 1910s-1930s、2015 年 12 月(招待) 於 Katholieke Universiteit Leuven

小川佐和子、「実写からプロパガンダへ：日本における第一次世界大戦映画」、日本映像学会第 41 回全国大会 2015 年 5 月 於京都造形芸術大学

小川佐和子、「実写からプロパガンダへ：日本における第一次世界大戦映画」、近代社会史研究会第 253 回 2015 年 3 月 於京都大学

小川佐和子、「映画史と第一次世界大戦」、第一次世界大戦研究班 2014年12月 於京都大学人文科学研究所

小川佐和子、「ベルタ・フォン・ズットナー原作『武器を捨てよ!』上映会解説」 「第一次世界大戦開戦 100年と青野原捕虜収容所—箱庭の中央ヨーロッパ」展関連企画、2014年10月(招待) 於神戸大学

小川佐和子、「Cinema in Japan and the First World War: the reception of foreign war related films and the inflow of Modernism」 International Symposium on the First World War and Japan: Japan's New Role in a Changing World、2014年9月(招待) 於 Royal Flemish Academy of Belgium

10 小川佐和子、「Das Japanische Kino und ausländische Filme während des Ersten Weltkriegs (日本語同時通訳あり)」、Die ostasiatische Dimension des Ersten Weltkriegs: Der ‚Deutsch- Japanische Krieg‘ und China, 1914-1919 2014年9月(招待) 於 Ruhr-Universität Bochum

11 小川佐和子、「Kino in Japan zur Zeit des Ersten Weltkriegs」上映会 "Zeitsprung Kino-Tokyo 1914" 講演、2014年9月(招待) 於映画館バビロン(ベルリン)

12 小川佐和子、「無声映画に刻まれた大戦の経験」レクチャー上映会「第一次世界大戦と映画特集—映像に刻まれた現代の起点」講演、2014年7月 於京都文化博物館

13 小川佐和子、「古典的日本映画」の原点を大正期に探る」サントリー財団共同研究『可能性としての「日本」』、2014年5

月(招待) 於サントリー財団

〔図書〕(計 1 件)

小川佐和子、『映画の胎動：一九一〇年代の比較映画史』単著 人文書院 2016年2月 総ページ数 364 頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織
(1) 研究代表者
小川佐和子 (OGAWA, Sawako)
京都大学・人文科学研究所・助教
研究者番号：90705435

(2) 研究分担者 ()

研究者番号：

(3) 連携研究者 ()

研究者番号：

(4) 研究協力者 ()